丸和繊維工業　深澤隆夫社長（59）

トップ直撃

東京都墨田区のアパレルメーカーが国産の技術の粋を集めて開発したポロシャツは、宇宙飛行士の船内活動着に採用された。「アパレル業界の下町ロケット」は、立体裁断の先を行く「動体裁断・動体縫製」の技術で、体にストレスを与えない着心地のシャツで、業界に一石を投じている。（中田達也）

四次元 動体裁断・動体縫製で 異次元の着心地

ふかさわ・たかお　1960年11月25日生まれ、59歳。東京都出身。立教大学経済学部経営学科（現経営学部）卒業後の83年丸紅入社。91年に丸和繊維工業入社、2001年に社長に就任する。

――自社ブランド「INDUSTYLE TOKYO（インダスタイル トウキョウ）」は、さまざまな職業の人が愛用しているようですね

「シェーカーを振るバーテンダーの方や、手を大きく伸ばしたりするビリヤードの選手、ダンスの先生など、想像しなかったような場面で使っていただいています。飛行機で長時間の移動が多い方にも、疲れずに仕事に入れたという言葉もいただいています」

――自動車の運転も

「ドライビングシャツですね。激しい動きで長時間運転しても疲れないということで、プロのレーサーの方にも使っていただいています。一般の方も長距離ドライブのときに着ていただくと全然違うと思います。非常にリピート率が高い商品になってますね」

――価格帯は

「長袖のドレスシャツの中心価格は1万5000円ぐらいです。決して安くはないですけれども、価値がしっかり入っていると自負しています。一度着たらほかのシャツを着られなくなったという声もいただきます」

――動体裁断とはどのようなものですか

「一般的な立体裁断の場合、平面である布を立ち姿勢がきれいになるように裁断するものですが、無駄をそいでいくので動きにくくなります。かっこいい洋服を作ると着にくくなってしまうことを改善するため、シルエットを生かしながら動きを加味した型紙を40年ぐらいかけて作ったのが機能系服飾デザイナーの中澤愈（なかざわ・すすむ）さんです。人間の皮膚を徹底的に解析して開発されたもので、三次元に動きを加えた四次元のパターン型紙だといえます」

――これまで商品化は

「スポーツ用などで一部は作られていましたが、ニット素材に特化したドレスシャツはうちの独自のものです。動体裁断の着やすさをビジネスマンの通常の生活に役立たせたいと始めました。取り扱いをしやすいイージーケアの素材、洗濯ができ、縮みにくい素材を特に選んで作っています。ご要望も多かったので、ジャケットとパンツも作っています」

――縫い合わせる技術も重要に

「ニットの特性を最大限に生かせるような縫製技術を共同開発したのが動体縫製です。大量生産でスピードを出して作れるものではなく、ハンドメイドの要素もかなり入っています。効率より着心地を追求して作っていくスタンスです」

――高い技術が必要ですね

「本社1階に直営店を作る際、プロの販売員さんではなく、縫製している社員にお客さまからの言葉を直接聞いてもらおうと考えました。そこで何が起こったかというと、彼女たちも笑顔になって、もっといいものを作って喜ばせてあげたいとなるんですね。そうしていろんな技術が生まれてきて、動体縫製につながっています」

――業界の現状は

「付加価値を高めないと若い人たちがなかなか入ってこない業界になってしまっています。海外から大量に安いものが入ってきて、いま日本の市場で売られているアパレルの98％近くが輸入品になっているんですね。大量に入ってきた商品が大量に廃棄され、4着に1着は袖も通さないまま捨てられるというデータもあるようです」

――今後の取り組みについて

「OEM（他社ブランド品の製造）もやっていますが、それだけでは先がないので自主独立したメーカーとして力を付けていきたいと考えています。言われたことはなんでもやる〝下請け根性〟はよくないと思って、上も下もないパートナーシップを結ぶには自分たちも進化する必要があるんです」

「自主独立したメーカーとして力を付けていきたい」

宇宙仕様のポロシャツ

宇宙飛行士の山崎直子さんが着用したモデルのポロシャツ

【会社メモ】ニット製品のOEM生産のほか、自社ブランドの「INDUSTYLE TOKYO」を展開する。本社・東京。1956年創業、58年会社設立。2018年12月期の売上高は約20億円。従業員数43人。INDUSTYLE TOKYOは百貨店や本社1階の直営店、同社のECサイト「ITOHARI」で扱っている。

ゴルフでホールインワン達成！

【宇宙】2010年にスペースシャトル「ディスカバリー号」で宇宙に滞在した山崎直子さんの船内被服として同社のシャツが採用された。「宇宙ステーションで筋力もなくなる中で作業をする際にストレスを感じることがないような商品を作りました。作業のサポートができたんじゃないかなと思っています」

【商社】大学卒業後、大手商社の丸紅に入社した。「最初は大阪に配属され、それからサウジアラビアに配属になって織物の生地を担当していました」

事業環境が大きく変わったのが、1985年のプラザ合意だった。「中近東は薄利多売のマーケットだったので円高になって苦労しました」

商社マン当時について「商売のやり方がどんどん変わっていく時代で勉強になりました。いい先輩や同僚、後輩に恵まれていまも交流させてもらっていて、大きな財産ですね」と振り返る。

【家業】丸紅で8年間勤めて、父親が経営する丸和繊維工業に入社した。「父親が初めて入院して、無事に退院したのですが、そろそろ帰ってこいと言われました。当時はバブル絶頂で景気は良かったんですが、終わりが見えてきているときでしたね」

【家族】妻と29歳の長男。「孫も3月に生まれました」。愛犬はトイプードル「ラブ」。

【健康法】朝の散歩。「うちのワンちゃんは散歩が嫌いなので、1人で歩いています」

【お酒】「人と話すことが好きなので、以前は飲まない日が年に数日でした。さすがにまずいなと思って、最近は酒を抜いた日は手帳にシールを貼るようにしています」

【ゴルフ】大学時代はゴルフ同好会の主将を務めていた。ベストスコア75の腕前。「先日、ホールインワンを達成しました。保険に入っていてよかったです」

大学時代から続けているゴルフ

【手放せない品】1996年ぐらいから使っているというロレックスの「エクスプローラーⅡ」。

【読書】「最近読んだ本では、百田尚樹さんの『日本国紀』が良かったですね。日本人の誇りについて考えさせられます」

【これまでの仕事で最高の瞬間】「動体裁断や動体縫製の技術を使って、車椅子の方向けのジーンズを作ったことです。車椅子の人が外に出たくなるようなファッションということで、パラアスリートのイベントに試作サンプルをいっぱい作って持っていったんです。すると、履きやすいしかっこいいと評価していただきました。洋服が人を笑顔にする力を持っていると改めて感じさせられました」

車椅子でもはきやすい「フライング・ジーンズ」を着用したパラアスリートら